

急性胆嚢炎に対する危険回避手術の短期成績に関する研究

1. 研究の対象

2018年1月～2019年12月迄の間に当院で急性胆嚢炎に対し外科的手術を受けた方

2. 研究目的・方法

2018年に発刊された「急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドライン」では胆嚢炎の重症度別に治療指針が記載され、重症例の一部にも早期腹腔鏡下胆嚢摘出術の適応が拡大されました。しかし、胆嚢摘出術では、炎症の程度により胆管損傷などの重篤な合併症を引き起こし、予後に悪影響を与える可能性があります。そのため、重症例に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術中に外科医の判断で、胆管損傷を避けるために危険回避手術として「胆嚢亜全的術」や開腹手術などへの移行が推奨されております。

本研究では当院における急性胆嚢炎に対する外科的手術の診療成績を解析し、危険回避手術の妥当性や欠点について検討すること、危険回避手術に移行するリスク因子を解析することを目的としています。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

患者基本情報（年齢、性別、身長、体重、既往歴、ASA-PS、フレイルスコア）、胆嚢炎の重症度、発症から手術までの時間、手術前情報、手術施行時、周術期観察項目等のデータ

※これらはすべて通常の診療の範囲で得られた情報であり、本研究のために新たに情報を取得することはありません。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

済生会熊本病院 外科 新田 英利 （研究責任医師）

熊本市南区近見 5-3-1

TEL : 096-351-8000

以上